

動物園における自然遊び場に関する研究

大阪芸術大学 教養課程 教授 若生 謙二

動物園の役割として、動物やその生息環境についての知識を得るとともに、レクリエーションの場として自然環境を楽しむことがあげられる。かつてはレクリエーションの場が遊びの場として解され、多くの園に電動遊戯施設を中心とした遊園地が設けられてきた。しかし、こうした遊園地は自然環境を学ぶ場とは異なるという考え方から、近年では動物園における遊園地のあり方を見直そうという動きがみられている。

本研究では動物園におけるレクリエーションの場として自然環境を楽しみ、学ぶ場としての自然遊び場のあり方について検討し、遊びの手法やその素材、そしてそこから得られるものと共に、それらを実現する手法や方策について考察する。

動物園は動物が暮らす場である自然環境を学ぶ場でもある。入園者の多くを占める児童が楽しむ場も、自然環境を楽しむものとするれば、遊びと学びは相互の関係として位置づけられ、自然遊び場ともよぶことができる。わが国では公園の遊び場に鉄とプラスチック製の画一的な遊具が普及しているが、一部の保育園や幼稚園ではこれらとは異なる自然の遊び場が求められており、本研究でとりくむ自然遊び場は、公園や学校園にも求められるものと考えられる。

本研究の方法は次の通りである。従来の遊び場とその遊び方についての各地の動物園での事例を把握し、動物園の役割の変化に適合した遊び方の概念について検討する。自然環境を活用した自然遊び場の事例と共に、動物のくらしという要素をとり入れた遊び方についても抽出する。動物の生息環境とそこでの動物の暮らし方や行動などに目を向けることは、独自の遊び方を検討する上での大きな指標となりうる。生息環境に対応した水辺、樹上、岩場、草原等での遊び方を考察し、遊びの要素から新たな自然遊びの手法を検討し、さらにこれらを一般の遊び場に応用する方策を検討したい。

旧来の動物園の遊び場としては、戦後に設立された多くの自治体の動物園とともに、帯広市動物園や釧路市動物園など多くの園には、電動遊戯施設が配されている。これらは動物園が珍しい動物をみる娯楽の場と認識されて配されてきたため、遊園地と共存することに違和感なく受け入れられてきた。しかし、動物園が自然環境を学び、生命への理解を育む場と位置づけられるならば、遊園地は別の場として配し、動物園では自然遊び場のあり方を検討すべきであろう。

自然遊び場を取り入れた動物園としては、宇部市のときわ動物園があげられる。同園では生息環境展示と

として再生するのに際し、従来の電動遊戯施設の一部を廃し、新たに登攀、跳躍などの動物の行動を体験するものとして、起伏をつくり木製素材を用いた自然遊び場を創出した。

動物園での自然遊び場の独自の事例は欧州、特にオランダに多く見られている。プランケンデール動物園では、木製の櫓を設けており、ここに梯子はなく利用者はロープや網を利用して登る。また、櫓と樹林の間をネットと板でつくられた揺れ橋で渡る。利用者は自身の身体を駆使することで森との一体感を体験する。また、水を手動のポンプで汲みだして流してゆくが、水路の途中に堰があり、それを別の人が外して流れをつくりだすなど、複数人でなければ成立しない遊びを提供しており、見ず知らずの子供たちがコミュニケーションを図りながら水遊びを行っている。10m近い樹林の樹冠に登り、樹上での枝渡りに近い体験をするためにネットで囲われた筒状の塔に登り、横に伸びた空間をロープを伝って移動する。樹冠の位置に登ったところで、板張りの平坦な回遊路を歩き、樹冠の枝や葉にふれ、チンパンジーの樹上生活を体験する。霊長類の動物園であるアッペンフェールでは、森林にすむサル類の生活体験をするために、樹林の中のネットで覆われた通路を通して森林の回廊を移動する。チェコのプラハ動物園では、木製の移動回廊と共に樹上に繭のような球状の空間を設け、ロープで登った子供がその中で瞑想にふける、樹上で籠るという体験をさせており、人気を博している。

オランダのロッテルダム動物園に隣接し公園の一角にあるスピルダーは、NPO 法人が運営する子どもの自然遊び場である。造成された樹林と池がある遊び場で子どもたちは木登りや筏遊びや探検をする。これはわが国でも高度成長以前にはどこにでもみられた、自然と向きあう子供の遊びである。同様の自然遊び場はわが国の神奈川県の川和町にある川和保育園においてもみられる。樹木で覆われた園内には、粘度の高い砂を配した砂山や穴場を体験したり、岩場やツリーハウスに登るなどの体験をする。

これらの遊び場は木材と土と植物が中心である。地面には起伏があり、水辺を配していることが特徴である。子どもが遊び場に求める要素としては、跳ぶ、揺れる、滑る、登る、籠る等の行動があげられる。自然遊び場の手法を検討するには、これらの行動をひきだす要素を原則として空間に取り入れ、動物の生活の場である、樹上、岩場、草原、水辺に対応した遊びの方策を考案することが求められよう。